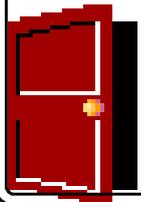


《読書活動の楽しさと大切さを伝えたくて》



読書活動への扉を開く！

桑村小学校 令和5年2月6日 第52号 文責 渡邊

保護者の皆様、たくさんの声を寄せてくださり ありがとうございます！

これまで読書通信『読書活動への扉を開く』に、たくさんのご意見やご感想をお寄せくださりありがとうございます。1月23日(月)までに、83通の声寄せられました。本当に多くの皆様方から応援いただき感謝の気持ちでいっぱいです。

今回は、保護者の皆様方から寄せられた感想の一部を紹介させていただきます。

「読書活動の扉を開く」(11月30日号)を読んだ感想

小学校で勉強している目的が、良いテストの点数をとるためだけだと勘違いしている子がないことを祈ります。私は会社では、「英語」と「数学」がかなり役に立っています。今でも勉強は続けています。このまま給料UPを目指します。

(6年生保護者)

「読書活動の扉を開く」(11月30日号)を読んだ感想

読み聞かせの本について、どんなものを読んでもらっているのか気になっていたのでも参考になりました。記録も保護者や読み手の思いを知ることができてとてもよいです。勉強に対しては、つい口うるさくしてしまい、自分のようになってほしくないという子を思うこととと思っていましたが、好きなことをやっている時は、表情がいきいきとしているので、口うるさく言わずに子供たちが楽しんで学べるようなフォローをしていかなければと感じました。(2年生保護者)

「読書活動の扉を開く」(1月13日号)を読んだ感想

いつまでも他人のせいにする人っていますよね。本人が気がついていないだけで、周りはずっと気がついていて、気がついた頃にはもう誰もいない。失敗→改善→対策→向上 誠実に反省する力も必要ですね。(6年生保護者)

「読書活動の扉を開く」(1月13日号)を読んだ感想

自分にとって不都合が生じると、その原因は他人だったり、物だったり、環境だったり…外側へ矢印を向けるのは、高校生ぐらいまでの自分もそうだったなと思い出しました。環境も他人もどんなに文句を言っても、自分の力、努力では変わらない。変えられない。「今」という時間を大切にするために、変えられるものは「自分」。自分の心のもち方を変えていければ、「今」はとても充実すると思います。「自分はどうしたいのか」を伝えることはとっても大切だなと改めて感じました。(1年生保護者)

「読書活動の扉を開く」(1月13日号)を読んだ感想

自律する子を育てていきたいという願いを抱きながらも実際の生活では「待てない自分」と感じ、反省させられました。時間が無いバタバタしていることを言い訳に、「～しなさい」「～できてないよ」と声かけをする程、物事が片付き身に付くのではなく、繰り返すだけ。改めて意識させていただける機会となりました。(3年生保護者)

「読書活動の扉を開く」(1月16日号)を読んだ感想

読み聞かせのイベント、とても良いですね。私も子供の頃に、そのような時間があった、どんな本もワクワク聞いていました。読み手も、なぜその本を選んだのか、考えることも面白いですね。どんな本も、大人から子供に大切な事を教えたい、そんな気がします。(6年生保護者)

「読書活動の扉を開く」(1月20日号)を読んだ感想

私も「親の仕事は信じて待つこと」という言葉を聞いたことがあります。根気をためられるたいへんな仕事です。その子の自主性を育てたいという思いからですが、相反することもしている気がします。それは、子供の小さな長所を大げさに褒め、私の理想に導こうと心の奥底で思っているところです。しかし、今回、「感謝の木」を作ってもらったことで、親にほめられることとは少し違った自己肯定感が高まったのではないかと感じます。(1年生保護者)

「読書活動の扉を開く」(1月20日号)を読んだ感想

「自己肯定感がストレス耐性を上げる」を読んで、自分の良いところを自覚するのはもちろんのこと、自分のダメなところを認めて反省するのではなくて、うまくつき合っていく方法を見つけるのも、自己肯定感が上がる気がします。また、自分のいいところを分かっていないと、他人の良いところも見つけれません。親も日頃の忙しさにかまけてないで、自分との対話時間を持ち、自己肯定感を上げて子供に背中を見せたいなと思いました。(4年生保護者)

「読書活動の扉を開く」(1月20日号)を読んだ感想

お孫様とのすてきなエピソードに心がほっこりしました。いつもありがとうございます。私の仕事が、まさに「あなたには欠けているもの、ところが一切ない、完ぺきな存在だよ…」と伝える側にあります。「もし、欠けていると感じるのならば、思い込みだけ…」草花を育てるように、お水の加減をその時々で決めていくように、必ず必ず、お花が咲くと信じれる自分であるよう、日々生きていきたいと思います。いつもありがとうございます。(6年生保護者)

「読書活動の扉を開く」(1月20日号)を読んだ感想

「子供の主体性を尊重する」「大人がじっと見守る」頭で分かっている実践するのは難しいですね。我が子も自己肯定感の低さからいろいろなことに前向きに取り組むことができず、自信をなくしていた時期がありました。でも、周りの先生方からの温かいご配慮により少しずつですが「自分でやってみよう」、「自分ならできる」と思えるようになってきました。自分にとっての強みは何かを理解することで、自己肯定感を高めることができると思います。まだまだ手探りの状態ですが、私も子供と一緒に成長していけたらと良いなと改めて思いました。(3年生保護者)

保護者の皆様方、たくさんの応援を本当にありがとうございます。

今回は「自己肯定感」を身に付けることについての意見が多く寄せられました。

これからも学校と家庭が連携し、子供たちの読書活動を進め、「豊かな感性」の育成を図っていきたく強く願うところです。どうかよろしくお願いします！



【「本は友だち」を全校児童に】